

科目名	理学療法概論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	理学療法概念、歴史、方法や対象などについて説明し、理学療法の専門科目を学んでいくための基礎を作ることを主眼として、理学療法の全体像を総合的・体系的に概説する。								
一般目標	理学療法の大枠を理解し、今後4年間で学ばなければならない内容の概略を把握し、必要な知識を身に付ける。								
テキスト参考書等	シンプル理学療法シリーズ 理学療法概論テキスト 第2版(南江堂)								

到達目標		
知識(認知領域) 1. 理学療法概念・歴史を説明できる 2. 理学療法に関連する法規を説明できる 3. 理学療法的主要領域について説明できる。 4. 理学療法の対象となる病態について説明できる。 5. 理学療法の対象となる疾患について説明できる。 6. 一般の人に理学療法について平易に説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 積極的に授業に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	理学療法学科カリキュラムの概略	・4年間で学ぶ概略を説明できる。
2	理学療法の定義・歴史	・理学療法の歴史と定義について説明できる。
3	理学療法と障害・理学療法の対象	・理学療法の対象について説明できる。
4	理学療法の流れ	・理学療法の流れとクリニカルパスについて説明できる。
5	理学療法士に求められる資質、接遇、コミュニケーション	・理学療法士としてふさわしい接遇がイメージできる。
6	理学療法を構成する核技術の概要 ①運動療法	・運動療法の概略が説明できる。
7	理学療法を構成する核技術の概要 ①物理療法	・物理療法の概略が説明できる。
8	理学療法を構成する核技術の概要 ①日常生活活動練習	・日常生活活動練習の概略が説明できる。
9	感染予防	・感染予防が実施できる。
10	作業療法概論	・作業療法の仕事の概要が説明できる。
11	理学療法士が働く現場①(金井 和明)	・急性期の理学療法士の仕事について説明できる。
12	理学療法士が働く現場②(金井 恵美)	・回復期の理学療法士の仕事について説明できる。
13	理学療法士が働く現場③(塚本 彬史)	・生活期の理学療法士の仕事について説明できる。
14	理学療法士が働く現場④	・スポーツ領域の理学療法士の仕事について説明できる。
15	まとめ	・理学療法の仕事について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	島本 祐嗣、金井 和明、他		実務経験紹介	理学療法士として回復期、生活期の多様な病院、施設に勤務経験あり	

科目名	理学療法評価法B			単位数	2	時間数	30		
授業形態	講義	対象学生	PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	治療室
授業概要	身体機能において筋力測定は重要な評価の一つである。特に、機器を使用せずに筋を個別に評価できる徒手筋力検査法は理学療法士として必須の評価方法である。授業では、上肢・体幹・下肢の筋の測定方法を、1年次後期で行われる解剖学と並行して学んでいく。								
一般目標	・徒手筋力テストの段階づけ・検査肢位について知識を修得する。								
テキスト 参考書等	教科書:新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医学出版社) 参考書:図解 理学療法検査・測定ガイド(文光堂)、MMT適切な検査肢位の設定と代償運動の制御 (medical view)、MMTナビ臨床で役立つ徒手筋力検査法 (RoundFlat)								

到達目標		
知識(認知領域) 徒手筋力検査法を、部位別に各段階づけの説明ができる。 徒手筋力検査法に関連する国家試験水準の問題を解答することができる。		
技術(精神運動領域) 適切な声掛け、代償動作の抑制、徒手抵抗の程度、段階づけの判断などを教科書に従って模倣することができる。		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション・徒手筋力テストの原理	徒手筋力検査の目的と原理について説明することができる。
2	上肢の徒手筋力検査①	上肢の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
3	上肢の徒手筋力検査②	上肢の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
4	上肢の徒手筋力検査③	上肢の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
5	上肢の徒手筋力検査まとめ①	上肢の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
6	上肢の徒手筋力検査まとめ②	上肢の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
7	頸部・体幹筋の徒手筋力検査①	頸部・体幹筋の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
8	頸部・体幹筋の徒手筋力検査②	頸部・体幹筋の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
9	下肢の徒手筋力検査①	下肢の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
10	下肢の徒手筋力検査②	下肢の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
11	下肢の徒手筋力検査③	下肢の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
12	下肢の徒手筋力検査④	下肢の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
13	下肢の徒手筋力検査まとめ①	下肢の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
14	下肢の徒手筋力検査まとめ②	下肢の徒手筋力検査における各段階づけを説明し、実施することができる。
15	姿勢別徒手筋力検査実施	姿勢ごとの徒手筋力検査を実施することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史		実務経験紹介	理学療法士として医療機関に勤務し、理学療法評価に携わってきた。	

科目名	日常生活活動A			単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 1年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室
	301教室、ADL室							
授業概要	日常生活活動と理学療法士の関わりについてや生活に不可欠な身の回り動作を理解し、ADL動作の評価方法や指導方法について学んでいく。							
一般目標	①理学療法士として必要なADL評価の手法や特徴について知識を修得する。 ②自助具および福祉機器の名称と使用目的について知識を修得する。							
テキスト 参考書等	シンプル理学療法シリーズ 日常生活活動学テキスト（南江堂） その他、必要な資料を適宜配布する。							

到達目標		
知識(認知領域) ADLの評価方法やADL動作の指導方法について説明することができる。		
技術(精神運動領域) 杖の調整や車椅子操作を安全に行うことができる。		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	ADL総論	リハビリテーションと理学療法、日常生活活動を理解し、説明することができる。
2	国際生活機能分類	ICFの意義・目的・方法について説明できる。
3	日常生活の評価	ADL評価の意義・目的・方法について説明できる。
4	日常生活の評価(演習①:FIM)	FIMの概要について説明することができ、評価を行うことができる。
5	日常生活の評価(演習②:ICF・FIM)	ICF・FIMより情報を整理し、説明することができる。
6	起居動作	起居動作について説明することができる。
7	補装具①杖	杖の種類、調整方法、ADL指導について説明し、実施できる。
8	補装具②松葉杖	松葉杖の種類、調整方法、ADL指導について説明し、実施できる。
9	車いす①	車いすの構造について説明できる。
10	車いす②	基本的な車いすの介助方法と駆動方法を説明し、実施できる。
11	車いす③	応用的な車いすの介助方法と駆動方法を説明し、実施できる。
12	身の回り動作	身の回り動作について説明し、ADL動作指導を実施できる。
13	リハビリテーション支援機器と住環境①	リハビリテーション支援機器について説明することができる。
14	リハビリテーション支援機器と住環境②	住環境について説明することができる。
15	症例検討	提示された症例のADLについて説明し、ADL動作指導を実施できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史		実務経験紹介	理学療法士として医療機関で従事し、ADL指導などの業務に携わってきた。	

科目名	生活環境論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	理学療法士として患者様の治療を考えると、生活環境を前提として治療目標を立案することが不可欠である。QOLを向上させるためにも環境面へのアプローチを提案できなくてはならない。本授業では生活環境に対する基礎知識と考え方を学習し、福祉住環境コーディネーター2級検定試験受験の準備をすすめる。								
一般目標	住宅改修と福祉用具についての基本的知識を習得する。								
テキスト参考書等	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト(東京商工会議所編)								

到達目標		
知識(認知領域) ①住環境整備のために理学療法士として必要な知識(社会制度、家屋改修・福祉用具の導入のポイント)を説明できる。 ②障害モデルごとの住環境整備のポイントを説明できる		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	福祉住環境整備の重要性・必然性	・福祉住環境整備の重要性について説明できる。
2	高齢者の健康と自立	・高齢者の健康の特徴について説明できる。
3	バリアフリーとユニバーサルデザイン	・バリアフリーとユニバーサルデザインについて説明できる。
4	少子高齢社会と共生社会への道	・日本の少子高齢社会について説明できる。認知症サポーターになる。
5	住環境整備の基本技術①段差	・段差や床材の家屋改修について説明できる。
6	住環境整備の基本技術①手すり	・手すりの基本事項について説明できる。
7	住環境整備の基本技術①建具	・建具、スペースへの配慮の基本事項について説明できる。
8	住環境整備の基本技術①トイレ	・トイレに関する家屋改修について説明できる。
9	生活行為別整備の手法①外出	・玄関回りの改修を中心に、外出支援に関する家屋改修について説明できる。
10	生活行為別整備の手法②屋内移動	・廊下や階段など屋内移動に関する家屋改修について説明できる。
11	生活行為別整備の手法③排泄	・トイレに関する家屋改修について説明できる。
12	生活行為別整備の手法④入浴	・風呂と脱衣所に関する家屋改修について説明できる。
13	生活行為別整備の手法⑤その他	・家屋改修一般の適応方法について説明できる。
14	福祉用具①起居・就寝・移動	・起居、就寝、移動に関わる福祉用具について説明できる。
15	福祉用具②排泄・入浴	・排泄、入浴に関わる福祉用具について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
学外テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	松原 早苗		実務経験紹介	訪問理学療法士に15年間従事し、担当症例の家屋改修や福祉用具導入に関わる	

科目名	理学療法セミナー				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	PT 1年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	カリキュラムが進行するにつれ、基礎分野から専門基礎分野、専門分野と履修内容が変化する。基礎分野は今後学ぶ領域すべての土台となるため、知識の定着は必須である。理学療法セミナーでは、これまで履修した基礎分野の知識定着度を確証し、専門分野の履修に必要な知識を国家試験水準で学習する。								
一般目標	解剖学・生理学・運動学の知識を国家試験水準で身につける。								
テキスト 参考書等	基礎固め ヒント式トレーニング 改訂第2版 基礎医学編(南江堂) 生体のしくみ標準テキスト第3版 新しい解剖整理(医学映像教育センター)								

到達目標	
知識(認知領域)	・解剖学、生理学、運動学の知識について説明できる。
技術(精神運動領域)	・なし
態度(情意領域)	・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標
1	基礎医学の学習と習熟度確認(1)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
2	基礎医学の学習と習熟度確認(2)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
3	基礎医学の学習と習熟度確認(3)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
4	基礎医学の学習と習熟度確認(4)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
5	基礎医学の学習と習熟度確認(5)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
6	基礎医学の学習と習熟度確認(6)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
7	基礎医学の学習と習熟度確認(7)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
8	基礎医学の学習と習熟度確認(8)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
9	基礎医学の学習と習熟度確認(9)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
10	基礎医学の学習と習熟度確認(10)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
11	基礎医学の学習と習熟度確認(11)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
12	基礎医学の学習と習熟度確認(12)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
13	基礎医学の学習と習熟度確認(13)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
14	基礎医学の学習と習熟度確認(14)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
15	基礎医学の学習と習熟度確認(15)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史		実務経験紹介	教員として国家試験対策に携わってきた	